



MINAMI

Vol. 124

題字揮毫 加賀谷 雪泉

広報



卒業生の皆さんへ

校長 三上 隆裕

第五十一回生
の皆さん、ご卒業おめでとうござります。今春

も、二百二十九名の生徒が本校から卒立っていくことになりました。希望に胸を膨らませて入学したあの日から、すばらしい仲間とともに、楽しくし勉強に部活動に励んできたことと

思います。進路面では、国公立大学をはじめとする上級学校への進学、国家公務員や県職員、弘前市役所への合格、そして部活動では、空手道部やバドミントン部を筆頭に、県高校総体での運動各部の活躍、また文化部では、視聴覚部のNHK杯全国放送コンテスト及び全国高総文祭への出場など、本校のモットーである「文武両道」を、しっかりと実践してくれました。

皆さんは今まで、いろいろな場面で家族や周囲の方々の励ましに支えられてきました。しかし、これからは自分で考え、自分で切り開いていく、今までとは違った人生が始まります。「巣立つ」というのは、親元を離れて「独り立ち」することです。社会的には一人の大人と見なされます。したがって、自らの責任で考え、行動していく必要があります。自立した一人の人間として、そして、社会に役立つ人間として成長していくことを切に願っています。

さて、皆さんの独り立ちに向けて、私の一年間の企業研修先であった株富士電機ホールディングスの人事室長が、社内研修等で若い社員に訓示していたお話を紹介します。

「民間企業では、仕事を選ぶことはできません。与えられた仕事に一生懸命に挑戦していくしかないのです。上手くできるようになると、協力してくれる同僚のありがたさを感じる余裕ができるまです。仕事を通じて自分に正直に向き合い、自分とというを作り上げていく。仕事をするとはそういうことです。自分に合っているとか、好きとか嫌いとかという言葉が入り込む余地はありません。仕事をするとは、もっと崇高なものなのです。」

大学等に進む皆さんも最終的には就職します。どの職種でも、仕事を選ぶことはできません。しかし、民間企業では、与えられた仕事を通じて成長していく人材を求めています。学力はもちろん大切です。ただ、仕事はチームで行います。ですから、いろいろな経験の中での幅広い人間関係を培ってきた遅い学生がほしいのです。ぜひ、部活動やサークル活動等に積極的に取り組んでください。

最後に、弘前南高校の卒業生としての誇りを胸に、皆さんに続く後輩が人生の先達として慕い、目標とする存在となることを切に願っています。

全国高総文祭への出場など、本校のモットーである「文武両道」を、しっかりと実践してくれました。

皆さんは今まで、いろいろな場面で家族や周囲の方々の励ましに支えられてきました。しかし、これからは自分で考え、自分で切り開いていく、今までとは違った人生が始まります。「巣立つ」というのは、親元を離れて「独り立ち」することです。社会的には一人の大人と見なされます。したがって、自らの責任で考え、行動していく必要があります。自立した一人の人間として、そして、社会に役立つ人間として成長していくことを切に願っています。

大学等に進む皆さんも最終的には就職します。どの職種でも、仕事を選ぶことはできません。しかし、民間企業では、与えられた仕事を通じて成長していく人材を求めています。学力はもちろん大切です。ただ、仕事はチームで行います。ですから、いろいろな経験の中での幅広い人間関係を培ってきた遅い学生がほしいのです。ぜひ、部活動やサークル活動等に積極的に取り組んでください。

最後に、弘前南高校の卒業生としての誇りを胸に、皆さんに続く後輩が人生の先達として慕い、目標とする存在となることを切に願っています。

卒業生に送る言葉



卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。学業を続ける人、就職する人、いずれにしても、今までとは違つた環境が待ち受けている

卒業生に贈る言葉

父母と教師の会会長 川村 勝明



卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。卒業を

ます。そして、乗り越えなければならない壁が幾つもあると思います。そのひとつが、出来ない事を叱責されながら覚えさせられることがあります。この方法がいいか悪いかは別として、叱られることに慣れていない人に

多くの偉大な組織、チームには「ひたむきな努力」が其通項として浮かび上がります。なぜならそれが成功の絶対条件だからである。これは、近道を通ろうとしてもうまくはいかない。どんなことでも、それが有意義なことであるなら、ひたむきに努力しなければ達成することはできないのである。どうか、これから的人たちが、このことを肝に銘じておいてください。

五十一回生の皆さんへ

錫杖会会長 土谷 勝規



卒業おめでとうございます。心からお祝い申しあげます。皆さんの進むべき道は

くぐつたのが千九十五日、時

五十一回生の皆さんへ

育労会代表理事 藤田 隆彦

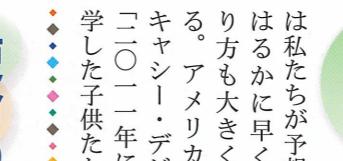


ご卒業おめでとうございます。皆さんの進むべき道は

それ違いますが、どのような人生が待っているでしょうか。この世にかけがえのない命を授かつた皆さ

使命の尊重

三年次委員長 対馬 幸治



少子高齢化、グローバル化が進む現在、世の中の流れ

は私たちが予想するよりも早く、職業の方も大きく変化している。アメリカの大大学教授キャシー・デビットソンは「二〇一一年に小学校入学した子供たち（現在の小

未来のために

三年次主任 大瀬 幸治



「勝利することはすばらしい。しかし、本当に大切なのは勝利に値することだ」。「勝利に値する」とは

國民にこう呼びかけた。「勝利することはすばらしい。しかし、本当に大切な要素である。すぐには欲望を充足させようとする風潮の中、スペースシャトルの中、スバルのチャーチル首相は「勝利することには努力が不可欠し遂げるには努力が不可欠な要素である。すぐには欲望を充満させようとする風潮を積み重ねた結果である。

成功に値すること

教頭 菅原 文子

勝者たるもの

31 H.R. 担任 濱田 隆司

逆転の発想

33 H.R. 担任 川村香奈子



成功に値すること

教頭 菅原 文子

勝者たるもの

31 H.R. 担任 濱田 隆司

逆転の発想

33 H.R. 担任 川村香奈子

修学旅行 (2年次)

10月6日～10日、2年次生が修学旅行へ行き、京都、奈良の寺社仏閣を見聞して視野を広げ、大阪のUSJ（ユニバーサル・スタジオ・ジャパン）を大いに楽しみ、有意義な時間を過ごしてきました。

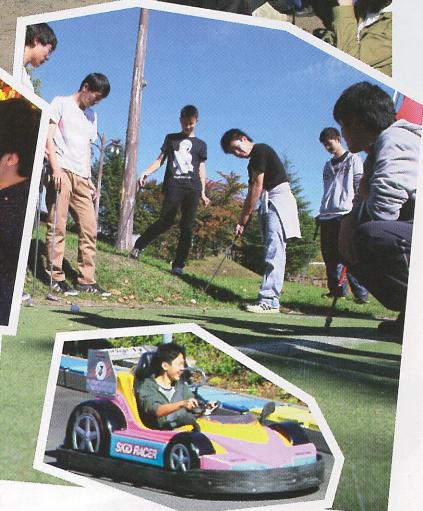
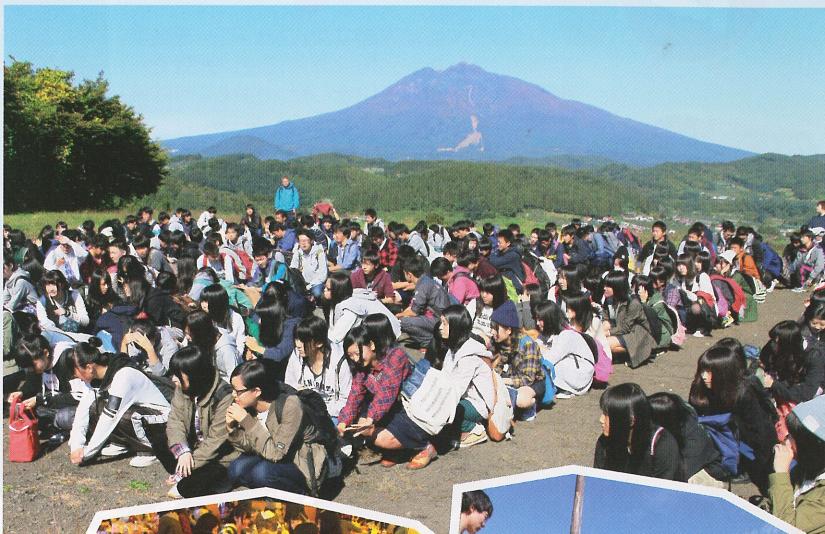


遠足

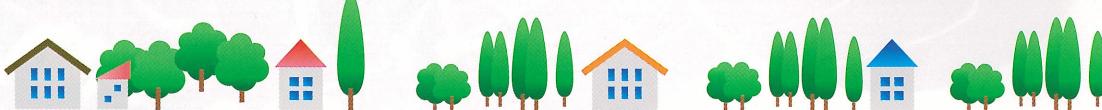


10月6日、3年次は星と森のロマントピアそよま、1年次はつがる地球村へそれぞれ遠足に行き、自然に触れることで気分転換し、進路達成または後期の学校生活への助力をしました。

ロマントピアそよま (3年次)



つがる地球村 (1年次)



運

動

会

9月8日、弘前運動公園に於いて、運動会を開催しました。当日は非常に良い天気で、運動するのに適していました。生徒たちは協力したり応援し、全力を尽くしました。





南高祭

7月25日・26日、南高祭が開催されました。1日目は弘前市民会館でのステージ発表に保護者が約200名訪れ、各クラスのダンス発表を楽しみました。2日目は本校で模擬店やクラス展示、文化部の展示などに地域の方々も訪れ、生徒の頑張りに感心していました。

贈 青森県立弘前南高等学校
易之

ディベート競技会

10月2日、本校に於いて、南陵Dプランの1つとして実施されているディベート競技会が開催されました。7月末から始まり、各クラス、各年次で勝ち上がったグループが競い、当日は勝ち上がった3年次生のディベートとなりました。ディベートに参加する生徒だけでなく、それを見て勝敗を判定する1年次・2年次生にとっても論理的に話す方法を実際に見て学ぶ機会となりました。



東北はひと

父母と教師の会副会長 三上 昌一



第六十四回 東北地区高等学校PTA連合会



平成二十七年七月二日～三日に開催されました。東北各地より千五百名程の関係者が集い「ふるさとを愛し、豊かな心を育むためにPTA活動とふるさと教育」のテーマで盛況な大会でした。

研究協議では、各県より一校ずつ地域とのふれあいがあり、PTAメンバーも

生徒と共にふるさと教育に参加しながら自分自身も学んでいる様子をうかがい知ることができました。高校

生からのメッセージでは県内の三校より発表があり、プレゼン能力の高さに感心させられました。また、記念講演では恐山菩提寺院代の南直哉氏が軽妙な語り口で、脱サラし修行した時代の話や、恐山はイタコや幽霊が現れるというイメージで信仰を集めているのではなく、千百年にわたり信仰者の多くは東日本大震災の被災地域の方という話を聞き、県民でありますながら全く知らないかったことに愕然としました。

被災地では、ふるさとが壊滅的な状態となり、今もって不自由な生活、教育環境を強いられている現状の中で何が大事なのか考えさせられる内容でした。生きていく上で、どんな場面でも必要とされる「自分らしさ」は、ふるさとで育まれることを再確認できました。

フィナーレは高校美術館に行きました。美術館に着くと、チエ・ジョンファのフラワー・ホースが迎え、そして、ロング・ミュエクの高さ四メートル近くある女性像のスタンドイング・ウーマン。

生による一足早いねぶた祭りとなり、会場全体が熱気で包まれていました。大会を終え脳裏に浮かんできたものは、住吉大会会長が訴えていたのではないかと思いました。

続いて保護者の立場から、青森中央高校PTA会長・県高P連健全育成委員の松浦健悦氏が自分の貴重な体験に基づいて発表を行いました。

つである。」という姿でした。今大会は、その意志が明がありました。そして、学校外部からの支援をいくつか提案しました。

弘前大学大学院医学研究科附属子どもこの発達研究センター特任准教授栗林理人氏による講話は、最近の児童の思春期の特徴や、発達障害などについて医療の立場から実例をあげ、詳しく説明がありました。

その後のグループワークでは予定時間が足りなくななるほどの様々な意見交換がされ、難しいテーマのこのた。

平成二十七年度青森県高P連健全育成研修会報告

健全育成委員長 石田 洋



願いを込めて

文化委員 大田 悅子

七月十一日、文化委員会

企画の「PTA文化研修会」に参加しました。参加者は

二十名で、十和田市現代美術館に行きました。

また、中庭には、オノ・ヨーコの「ウイッシュ・ツリー」がありました。この作品は、平和を祈願するプロジェクトで、観客が自分の願いごとを白い短冊に書き、木に吊るしていくといふ参加型の作品で、願いごとを吊るす木には、青森の地域性も考慮したリンゴの木が選ばされました。中庭全

ての見学を終え、再度、「ウイッシュ・ツリー」に行き、短冊に子どもたちが安心して過



研修会が内容豊富で充実しました。PTA会長ほか八名が参加されました。皆様や貴重な意見発表など協力していただきました。ありがとうございました。

平成27年度

健闘の記録

◆卓球部

平成27年度青森県高等学校卓球新人選手権大会

男子学校対抗1部 第5位

女子学校対抗2部 第3位

男子個人 第11位 越田 悠真(2年)

◆水泳部

第23回東北高等学校新人水泳競技大会

女子400m自由形 第2位 菊池 祐以(1年)

◆空手道部

第21回津軽地区高等学校空手道選手権大会

男子団体組手 第3位

男子個人組手 第1位 中畑 憧(2年)

秋季大会

男子団体組手 第2位

女子団体組手 第2位

男子個人組手 第1位 中畑 憧(2年)

東北大会出場

東北大会出場

全国大会出場

女子個人組手 第3位 竹中あかね(2年)

東北大会出場

女子個人組手 第5位 須藤穂乃佳(2年)

東北大会出場

◆サッカーチーム

第17回弘前地区二種ミニサッカー大会

優勝 決勝 弘前南A 3-0 弘前高校

◆写真部

第36回青森県高等学校総合文化祭写真部門

優秀賞 本間 菜月(2年)

全国高総文出場

優秀賞 三上 大翔(2年)

全国高総文出場

優良賞 斎藤 賢伍(2年)

優良賞 千葉 涼子(1年)

◆将棋部

第36回青森県高等学校総合文化祭将棋部門

男子個人B組 第3位 松山 康汰(1年)

◆芸文部

第36回青森県高等学校総合文化祭芸文部門

散文 優秀賞 三上万紀子(3年)

散文 優良賞 三浦 萌香(3年)

詩 優良賞 三浦 果峰(2年)

◆演劇部

第36回青森県高等学校総合文化祭演劇部門

最優秀賞 「予定期刻は6時」

東北大会出場

最優秀演技賞 松木 彩乃(2年)

◆視聴覚部

第36回青森県高等学校総合文化祭放送部門

アナウンス部門

優秀賞 八木橋香奈(2年)

全国高総文出場

優良賞 尾留川 楓(1年)

東北大会出場

テレビ番組部門

優良賞 「思い出修理」

東北大会出場

研究発表部門

優秀賞 「皆で一緒にウェアラブル改!!」

◆自然科学部

第36回青森県高等学校総合文化祭自然科学部門

優良賞

「コウライテンナンショウの

性転換のしくみについて」

全国高総文出場

◆華道部

青森地区第26回学生いけばな競技会

優秀賞 久保田菜日美(1年)

準優秀賞 前田 菜緒(2年)

準優秀賞 斎藤 安那(2年)

大学見学会に参加して

進路対策委員長 高橋吏可子

七月七日、進路対策委員会の主要な活動としての大学見学会が保護者二十名のご参加をいただき、開催されました。

午前中は、グローバルな

教育で今話題の秋田国際教養大学を見学しました。キャンパスはまるでウインの森のように自然に囲まれ、あたかも外国にいるのではと錯覚を覚えるほど素敵でした。就職率百%、授業はすべて英語、少人数教育、海外留学を義務化、新入生は外国人留学生と一年間寮生活等々、親ならば子をこのような環境で勉強さ

せてあげたいと思うようなものばかりでした。特にすごいと思ったのが、二十四時間三百六十五日使える図書館です。まるでハリーポッターの世界が現れたかのようで、皆興奮していました。



午後は秋田大学を見学しました。国立大学としての伝統があるだけあって、キャンパスも学生もどても落ち着いた雰囲気で、専門分野をじっくり学びたい学生には、このような環境が良いのではと思いました。



午後は秋田大学を見学しました。国立大学としての伝統があるだけあって、キャンパスも学生もどても落ち着いた雰囲気で、専門分野をじっくり学びたい学生には、このような環境が良いのではと思いました。

今回二つの大学を見学することで、進路選択をする際は、なるべく早い時期に、自分の目で見て、話を聞いて、目標を定めることがとても重要であるように思いました。

秋田への小旅行気分で、参加者の交流もあり、とても有意義な一日を過ごすことができました。

昨年度広報紙コンクールで最優秀賞を受賞した八戸学院光星高校の発表や東奥日報の石鉢さんの講演を聞きました。その中で学んだことは、記事のタイトルで注目を引くようにすることと学校独自の企画記事を載せることで他の学校と違いを明確にしていくことが大切だということです。



広報紙づくり研修会に参加して

広報委員 丹藤 浩司

員の方とも情報を共有し、次年度はより良い広報紙を作りたいと思いました。

広報紙づくり

PTA登校時ひと声運動

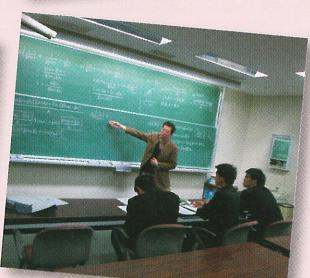
10月1日

10月1日、本校生徒玄関前に於いて、PTA登校時ひと声運動を行いました。保護者八名に参加していただき、生徒指導部、涉外部の教員と登校してくる生徒たちにあいさつしました。生徒たちは全員元気にあいさつを返してくれて、気持ちの良い朝のスタートを切ることができました。



南陵サイエンスセミナーⅢ

10月31日、1・2年次生33名が弘前大学理工学部・農学生命科学部を訪れ、物理・化学・生物・地学・数学・農業・工業・情報等の各領域に関する発展的な実験・演習を大学の教員・学生の協力を得て行ってきました。また、当日は、データ処理の方法やレポート作成技術も学びました。



南陵サイエンスセミナーⅡ

10月8日、サイエンスマンバー21名が青森県産業技術センター工業総合研究所を訪れ、スターリングエンジンの仕組みと模型の作成、新材料シクロデキストリンポリマーの性質と環境浄化への利用について学んできました。当日は、実験や演習を通じて普段見ることのできない様々な機材にも触ることができ、科学技術と産業との関わりも学びました。



編集後記

あっという間の3年。頑張ってくださった委員の皆様に感謝！
(工藤 貴子)

私の委員活動は程度の低いものだったなど反省。でも、得たものは大きかったです。ありがとうございました。(佐々木治美)

「広報委員会、割と楽しいです」を継続中。丹藤先生、ありがとうございました。(白戸 星子)